



城だより

第679号

日本古城友の会・会報

令和7年(2025)7月6日発行

「摂津 ガイドブックに無い大坂城を訪ねる」と研究発表会(8月・第742回例会)

〔◎午前部〕 摂津 ガイドブックに無い大坂城を訪ねる

日 時：令和7年8月3日(第一日曜日)現地集合 少雨決行(悪天候行程変更あり)

集 合：JR 大阪環状線 大阪城公園駅改札外 9時00分

行 程：大阪城公園駅 → 北二の丸(東西仕切門跡) → 極楽橋 → 山里丸曲輪(朱書文字刻印発見地) → 刻印石広場 → 天守閣裏本丸(豊臣時代天守閣北東隅) → 本丸【(S34)発見の豊臣「中の段石垣」(特別公開)】 → 豊臣石垣館【豊臣大坂城詰ノ丸東南出隅石垣】 → 旧陸軍第四師団司令部防空壕跡(内空堀に残る入口遺構) → 桜門樹形内蛸石・桜門に残るチギリ → 12時森ノ宮駅解散

※大阪城天守閣の御協力により、普段非公開の「中の段豊臣石垣」を見学します。

※午後の部会場へは、Osaka Metro 長堀鶴見緑地線森之宮駅より長堀橋駅で下車し移動。

アクセス：JR 大阪駅 8:42 発(大阪環状線 2 番線外回り) → 大阪城公園駅 8:52 着

担当幹事：平川大輔(築城史研究会代表)・藤岡秀典

参加費：賛助会員・正会員 2000 円、通信会員・当日会員 2200 円(午前部・午後部合せて)

(※リ克雷ション保険・記念写真・下見費用・豊臣石垣館入場料 1200 円)

問 合 せ：平川大輔 平日 18 時以降

(開催は新型コロナ感染状況によります。必ずホームページを確認の上ご参加ください。)

【今回の見どころ】

歴史ロマンあふれる天守閣を据えた特別史跡大阪城公園。石山本願寺跡に豊臣秀吉が天下統一の拠点として豊臣大坂城を築城。大坂夏の陣で落城後、徳川政権の元、北陸大名を中心に 64 家による天下普請にて再築された。

当日は、普段は非公開である井戸状(ヒューム管)内に保存されている「中の段石垣」を特別に見学できる他、今春公開された『豊臣石垣館』の見学をメインに、築城史研究会の調査員として 20 数年間大坂城石垣刻印調査に参加し、ガイドブックに紹介されていない遺構や現場で体験したこと等を含めお話ししながら、暑い時期ですが散策をしませんか。



よみがえる中世2 藤井重夫氏より

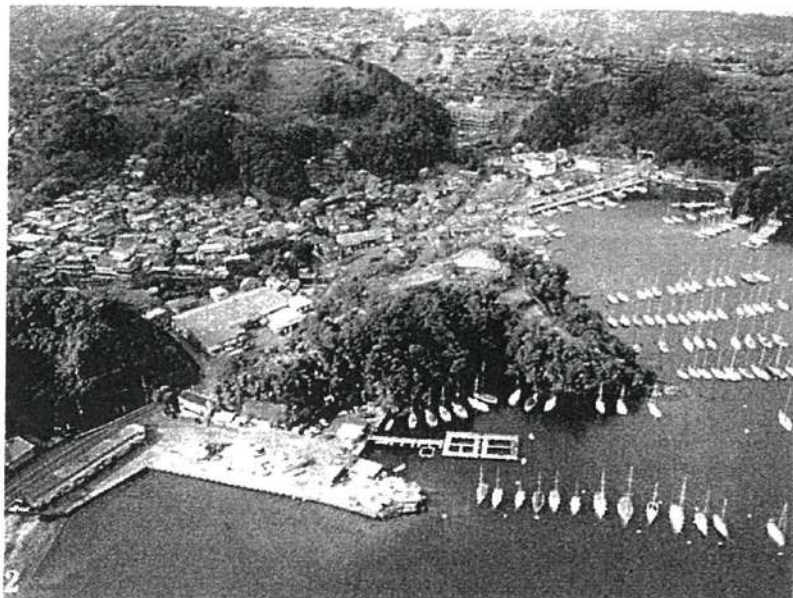
○34・○60 は発掘年度

〔◎午後部〕 研究発表会(情報交換会)・運営委員会

時 刻：13 時 集合場所：大阪市立中央会館第2会議室(大阪市中央区島之内 2-12-31)

アクセス：Osaka Metro 堺筋線・鶴見緑地線長堀橋駅で下車。⑥出口から南東へ7分

外張先之城」であるから、氏規が念を入れて指揮せよとある。翌年の氏規側から「長浜之城之儀」についての申し入れがあり大川氏の名が記されている。豊臣水軍（九鬼嘉隆、加藤嘉明、脇坂安治、長宗我部元親、羽柴秀長、毛利輝元ほか）総勢 14030 人、徳川水軍も合流して数百隻にも及んだ。3 月上旬に豊臣連合水軍は天正 18 年 2 月 26 日駿河湾の清水港に集結。西伊豆の各沿岸の城砦・入江の攻撃を開始した。九鬼嘉隆の特大装甲船には大型大砲 3 門搭載。長宗我部元親の船大将、池六郎右衛門の軍船は 200 人の漕ぎ



（長浜城跡遠望（北東から撮影） 「静岡県の歩ける城 70 選」から）

手の大型船で大砲が 2 門、鉄砲 200 挺ほか装備されていた。これらの大型軍船によって艦砲射撃を行い、上陸して城砦・入江を占領していったのである。北条氏は備えを厚くしたものの、歯が立たなかった。豊臣水軍の艦隊は伊豆半島を回り、下田城に向かった。北条水軍の主力は清水康英が守る下田城であった。手勢 600 余騎で 14000 余の大軍相手に 1 か月以上もの激戦を展開した。秀吉は下田城が堅固なのを知って長宗我部元親に下田城を当たらせ、他の水軍は小田原沖へ直航させた。韮山城では北条氏規率いる約 3600 人の城兵が善戦し、3 か月の籠城戦に耐え抜くが、6 月下旬に徳川家康の勧めで開城し、その際この長浜城は廃城になったものと考えられる。（完）

（参考文献）

- ・「伊豆水軍物語」（著）永岡 治 1982 年 中央公論社
- ・「静岡県の歩ける城 70 選」（編著）加藤理文 2017 年 静岡新聞社
- ・「東海の名城を歩く 静岡編」（編）中井 均・加藤理文 2020 年 （株）吉川弘文館
- ・「静岡の山城ベスト 50 を歩く」（編）中井 均・加藤理文 2009 年 サンライズ出版（株）
- ・「甲陽軍鑑（下）」原本現代訳 腰原哲朗訳 1979 年 （株）教育社

日本古城友の会

会 長 中西 徹

事務局 事務局長 平川 大輔

HP アドレス <https://www.kojyo-tomonokai.com/>

編集・発行 編集部長 下岡 力